

# 最重点野菜・土地利用型作物の産地強化

計画：平成30年～平成32年度

## 露地ナス栽培技術の高位平準化と 産地スタイルの確立

西部農業事務所  
富岡地区農業指導センター

# 最重点野菜・土地利用型作物の産地強化

## 支援事項

- 1 関係機関の連携強化による産地強化
- 2 露地ナス栽培技術の高位平準化と  
産地スタイルの確立
- 3 大規模タマネギ経営農家を核とした産地支援
- 4 キュウリの生産技術向上及び産地力アップ
- 5 若手コンニャク農家との連携による産地強化
- 6 集落営農組織の運営支援

# 甘楽富岡地域のナス栽培について

## 甘楽富岡地区の耕地面積

耕地面積 3,698ha

畑耕地面積 2,952ha

野菜面積 354ha

(2015年農林水産省統計データ)

以前は養蚕、コンニャクの産地

平成8年頃から園芸振興

ナス、ニラ等が増加

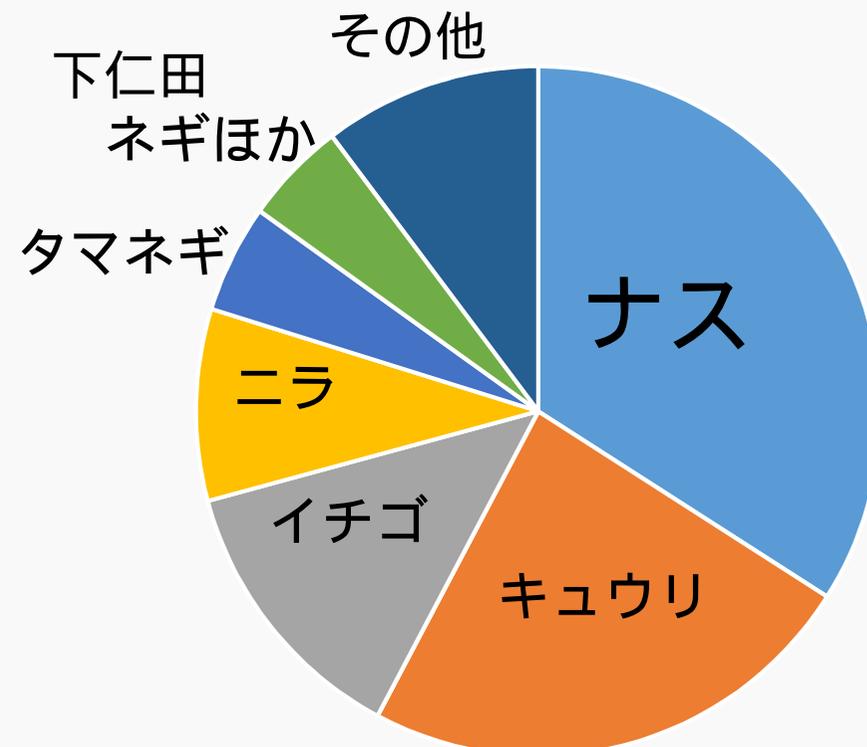
そのほか多品目生産

多チャンネル販売

露地ナスは設備投資が少なく、  
所得率が高い。

露地ナスは出荷販売額が最も高い品目

ナスを最重点野菜（露地、果菜類）として振興



合計24.9億円

JA甘楽富岡  
野菜販売実績  
(平成30年度)

# 甘楽富岡地域のナス栽培について

新規に露地ナスに取り組む生産者が多い。

温室、ハウス、貯蔵庫等の設備がなくても栽培可能

(設備にはV字支柱が必要、所得率54.6%)

	平成26年度	H27	H28	H29	H30
新規栽培者数	8人	6	6	7	7
生産者数	205人	204	202	199	191
栽培面積	37ha	37	36	35	34
1戸あたり面積	18.0a	18.1	17.8	17.5	17.8

全体では生産者数、栽培面積は横ばい～やや減少

生産者増と規模拡大のための省力化対策が必要

新規栽培者の技術習得、産地全体の技術の向上が必要

# 取り組み内容

(1) 新規栽培者の増加と技術習得

(2) 産地全体の技術レベルの向上

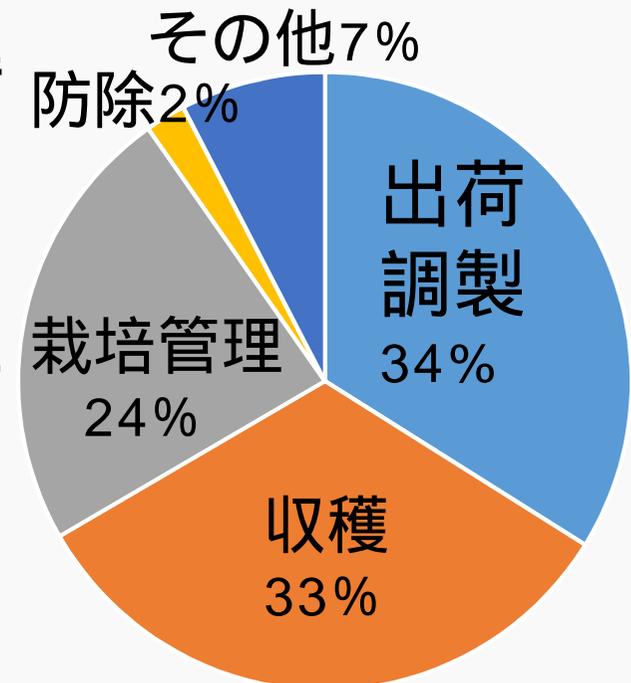
(3) 出荷調製の省力化対策

パッケージセンター利用による

FG袋詰め、出荷調製を省力化

1戸あたりの生産規模拡大には、

パッケージセンターの利用拡大が重要



合計437時間/10a

露地ナス

作業時間割合

甘楽富岡地区調査事例

# 目標

項目 \ 年次	平成29年度 (現状)	H30	H31	H32
出荷量	2,140t	2,160	2,180	2,230
販売額	659百万円	665	671	687

# (1)新規栽培者の技術習得

## 新規栽培希望者向け講習会

新規栽培者の掘り起こし  
ナス栽培希望者へ  
栽培概要を講習



## 次年度新規栽培者講習会

新規にナス栽培に取り組む人を対象とした講習会  
ナス栽培の基本の流れを講習

平成31年度は、新規5名が増加

# (1)新規栽培者の技術習得

## 新規栽培者現地研修会

定植から時期ごとに6回実施  
作業のポイントを現地研修  
新規栽培者とベテラン生産者  
との情報交換



H30年度成果指標	目標	平成30年度実績
新規栽培者平均収量 (10aあたり)	6t 以上	6.9t

## (2)産地全体の技術レベルの向上

### 全体栽培講習会・土着天敵利用研修会

生産者全体を対象  
栽培管理とIPMを講習  
バンカープランツ  
(マリーゴールド)の推進



H30年度成果指標	H29年度 現状	平成30年度	
		目標	実績
IPM実施者数 (マリーゴールド作付け)	40戸	48戸	40戸

マリーゴールドの効果に対する生産者の実感が低い  
31年度は、期待される効果を強調して講習、また、  
巡回指導により、**2戸**増加

## (2)産地全体の技術レベルの向上

### 土壌病害対策、輪作推進講習会

3地区で開催

土壌病害対策を講習

輪作を推進

病害虫の防除等を講習



ナスの土壌病害（半身萎凋病）

H30年度成果指標	H29 現状	平成30年度	
		目標	実績
土壌病害発生面積 (半身萎凋病、青枯病)	8.4ha	7.4ha	8.0ha

## (2)産地全体の技術レベルの向上

### 地区別現地研修会

2地区で開催  
地区の優良ほ場を視察  
整枝方法、灌水管理  
マリーゴールドの栽植等を  
研修



そのほか、時期別の栽培資料を配付（5回配付）

以上の平成30年度の取り組みにより

H30年度成果指標	H29年度 現状	平成30年度	
		目標	実績
露地ナス出荷量	2,140t	2,160t	2,298t

### (3) 出荷調製の省力化対策（パッケージセンターの利用）

#### JA甘楽富岡の出荷スタイル

通常の規格

FG袋詰 8kgダンボール出荷

出荷調製の省力向けの規格

5kgダンボール出荷

60本バラ・コンテナダンボール出荷

朝どりコンテナ出荷

パッケージセンター利用のFG袋詰

販売ロスを少なくするための規格

加工向け出荷 45L袋詰

現在、パッケージセンターは飽和状態であるが、

できる限り生産者の要望に対応中

さらなる利用を図るための検討が必要

### (3)出荷調製の省力化対策（パッケージセンターの利用）

利用調整会議・検討会

野菜振興会議 2回開催

JA甘楽富岡、全農ぐんま、市町村、  
西部農業事務所農業振興課、  
富岡地区農業指導センター



JAパッケージセンターの活用、出荷形態を検討

H30年度成果指標	H29年 度現状	平成30年度	
		目標	実績
パッケージセンター利用者数	40人	43人	43人

31年度は45人に増加

# 実績

項目 \ 年次	平成29年度 (現状)	H30	H31	H32
出荷量	2,140t	2,160 実績：2,298	2,180 (2,300)	2,230 (2,300)
販売額	659百万円	665 実績：831	671 (833)	687 (833)

( )内は上方修正した目標値

# 今後の取り組み

## (1) 新規栽培者の増加と技術習得

引き続き、

新規生産者の掘り起こしと早期の技術習得を図る。

今後、

新規就農・営農相談会（日曜日）を開催、  
掘り起こしを進める。

## (2) 産地全体の技術レベルの向上

引き続き、

講習会、現地研修、時期別栽培情報を配付し、  
出荷量維持向上を図る。

今後、

ハダニ類、うどんこ病防除の指導を強化

## (3) 出荷調製の省力化対策

引き続き

パッケージセンター拡充の検討

## 今後の取り組み（残された課題）

- (1) 新規栽培者の増加と技術習得  
新規生産者の**定着支援**、経営安定
- (2) 産地全体の技術レベルの向上  
IPMの推進（マリーゴールド推進）  
土壌病害対策（緑肥輪作、土づくりの推進）  
**生産規模拡大**に向けたナスの管理作業の検討
- (3) 出荷調製の省力化対策（パッケージセンターの利用）  
パッケージセンター拡充の検討  
パッケージセンター作業効率向上の検討



**甘楽富岡の産地スタイルの確立**